様式３

令 和 ７ 年 度　自 己 評 価 表（年度当初）

鳥取県立米子白鳳高等学校

中長期目標（学校ビジョン）	多様な背景を持つ生徒に「学ぶ意欲」を育て、「優しさと感謝の心」を育み、「自分も役に立ちたい」と前向きに共生する資質と「社会的な自立を実現する」といった意欲・態度を育む。

今年度の重点目標	1　学ぶ意欲の喚起・育成 2　真摯かつ心豊かに他と共生する態度の育成 3　「ふるさと」とつながる心の育成 4　社会的な自立に向けた支援

年度当初					評価結果　（ ）月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
1　学ぶ意欲の喚起・育成	○授業のユニバーサルデザイン化	○「分かる」を大切にしながら主体的に授業に取り組む態度を育てることが必要である。	○学習に集中し、意欲的に授業に参加することができる。 ○単位修得率80%以上	○全職員による生徒情報の共有 ○全ての教員によるユニバーサルデザイン研修・合理的配慮の視点を取り入れた授業の展開 ○支援が必要な生徒への個別指導				（教務、教育相談）
	○ＩＣＴ活用教育の推進	○世の中のＩＣＴの普及と利便性より、情報活用能力の育成が必要である。	○各自の課題の解決に向け、主体的にＩＣＴの活用ができる。 ○ＩＣＴ機器に抵抗感のない生徒80%以上	○ＩＣＴの活用のための教員研修と環境整備 ○ＩＣＴを活用した教材の充実 ○ＩＣＴを利用した授業実践 ○ＮＨＫ高校講座でのＩＣＴ活用				教務
	○生徒理解と環境整備	○多様な生徒のおかれた状況・背景を理解し、学ぶ意欲を高める必要がある。	○生徒が安心して学校生活を送り、意欲的に学習活動に取り組むことができる。 ○学校に対する安心感がある生徒80%以上	○個人面談・hyper-QUの実施による生徒理解と個別支援の充実 ○ＳＣ・ＳＳＷ・特別支援教育支援員・白鳳サポーターとの連携 ○通信制就学支援事業（学校内託児）の推進 ○「通級による指導」で学んだことを通常の学級で活かす校内支援体制の推進 ○生徒理解のための教員研修の実施と充実				教育相談
2　真摯かつ心豊かに他と共生する態度の育成	○基本的生活習慣の確立	○挨拶、言葉遣いなど基本的生活習慣を身につける取組が必要である。 ○無断遅刻、欠席する生徒がいる。	○早寝早起き等の生活のリズム及び適切な食生活を心掛ける。 ○すすんで挨拶をし、社会人として必要な言葉遣いができる。	○遅刻・欠席の防止指導、家庭連絡の徹底 ○立ち番指導の実施 ○積極的な挨拶・声かけ ○社会人としてのマナー指導 ○健康を意識した体調管理指導の推進				生徒
	○自己理解・他者理解の促進	○自己と他者の違いや多様性を受容できる人間関係力育成のための環境づくりが継続的に必要である。	○生徒同士の信頼関係が醸成され、お互いを尊重し合ってクラスが居心地の良い場となる。 ○学校が楽しいと感じる生徒80%以上	○生徒理解のための教員研修の実施と充実 ○エンカウンターの実施 ○性に関する指導や人権教育の充実 ○生徒向け教育相談講演会の実施				教育相談
	○個に応じた指導と集団の活性化	○人との関わりやコミュニケーションを特に苦手とする生徒がいる。	○自分自身を認め、自分について理解し、自らの課題に適切に対応していくことができる。 ○生徒会行事に積極的に参加した生徒の割合85%以上（定時） ○積極的に行事に参加し、アンケートにて「参加して良かった」と満足度を示す回答が90%以上（通信）	○生徒ひとりひとりの課題に応じたきめ細かい指導 ○自主性を活かした部活動の運営 ○執行部活動の充実				生徒
3　「ふるさと」とつながる心の育成	○体験活動をとおした社会性の育成と自己有用感の醸成	○社会的体験を積み重ね、さらに社会性を高めることが必要である。	○自らすすんで行動し自信と責任を持って活動することができる。 ○「自信がついた活動があった」と感じる生徒の割合80%以上	○定通充実事業（チャレンジものづくり体験・テーブルマナー講習・乗馬体験・校外研修・蔵書点検ボランティア）および実習を通した達成感の習得に向けた取組の推進 ○アルバイト、ボランティア活動、地域美化活動の推進				教務
	○地域との交流と協働	○地域との交流をとおし、地域社会や周囲の環境の良さを認めるなど関心をさらに高める必要がある。	○地域社会や環境に関心を持ち、異世代とのコミュニケーションができる。 ○園児との交流に積極的に参加した生徒の割合80%以上	○さつまいもの植付・収穫・会食を通した園児との交流 ○コミュニティ・スクールによる意見・提言の活用 ○淀江地区との交流を通したふるさとの特徴理解（銭太鼓・傘踊り体験、和傘作り、ヒガンバナの植栽活動、淀江さんこ節保存会）				教務
	○自己表現力の育成	○自分の思いや考えをうまく相手に伝えることができないため、相手に誤解を与える、誤解してしまう生徒がいる。	○周囲の状況に配慮した発言・行動が出来る。	○協働学習の推進 ○発表する・発表を聞くときの意識・姿勢の指導 ○一斉読書を活用した読書指導の充実				進路
4　社会的な自立に向けた支援	○ふるさとキャリア教育の充実	○社会の変化に対応するため、適切な勤労観の育成及び進路意識を早期に向上させる必要がある。	○自分自身の適性・特徴にあった進路実現を達成することができる。 ○自分の適性、就きたい職業について考えるようになった生徒の割合70%以上	○就職・進学講演会の開催 ○個別面談や相談の実施 ○学年団・就職支援相談員と連携した進路指導 ○アルバイト・インターンシップを通した勤労観の育成				進路
	○「産業社会と人間」「総合的な探究・学習の時間」の充実	○社会的自立に向けて、さらに系統的な学習の確立が必要である。	○社会的自立に必要なスキルが、学年に応じて身についている。 ○講演会・学習発表会等を通して「自分は成長した。」と肯定的に感じる生徒の割合85%以上	○系統的な学習プログラムの構築 ○学習成果発表会の実施 ○面接・着こなし講習会の実施				教務
	○関係機関との連携	○多様な生徒の特性を踏まえた支援の在り方を探るべく、関係機関との連携が必要である。	○自分が必要な進路相談および対策や準備ができ、進路実現を図ることができる。	○上級学校・事業所見学の実施 ○ハローワーク、若者サポートステーション、障害者就業・生活支援センターとの連携				進路
5　学校業務改善に向けての取組	○長時間勤務の解消	○学校行事などにより長時間勤務になる時期がある。	○月４５時間、年３６０時間を超える時間外業務がない。	○衛生委員会での時間外労働時間集計結果の周知と超勤者への声かけ ○定時退勤日・定時退勤週の実施				衛生委員会
	○働く上で効率のよい職場環境づくり	○職員室など整理が必要なところもある。共有フォルダもデータが整理・整頓がいきとどいていない。	○快適な職場環境で業務が効率的にできる。	○校内安全点検の実施と破損箇所等の迅速な改善 ○教職員の整理・整頓意識の啓発 ○共有フォルダの整理 ○職場環境での感染予防対策の継続				衛生・事務

評価基準　A：十分達成　B：概ね達成　C：変化の兆し　D：まだ不十分　E：目標・方策の見直し

〔100%〕　〔80%程度〕　〔60%程度〕　〔40%程度〕　〔30%以下〕